坂本・田中両選手から市民へメッセージ

伊丹大使の坂本勇人選手と田中将大選手に、東京2020オリンピック野球日本代表として金メダルを獲得した功績をたたえ市民栄誉賞を贈りました。

二人から受賞メッセージが届きましたので一部を紹介します。

詳しくは市ホームページで確認を（右二次元コードから読み取り可）。

メッセージ内容

【坂本勇人選手より】将大（田中投手）と一緒に市民栄誉賞を受賞できたことにも感慨深く縁を感じています。チームは違いますが伊丹市出身者として互いを刺激し合い、高め合って伊丹市の皆さまに少しでもいい報告ができるように頑張ります。これを機に一人でも多くの子どもたちに野球の魅力を感じてもらい、プロ野球選手を目指してもらえればうれしいです。伊丹市からたくさんの声援本当にありがとうございました。

【田中将大選手より】東京オリンピックでは金メダルを獲得できて、皆さまに良いご報告ができたことをうれしく思います。

シーズンも終盤に入って、チームは日本一を目指して戦っています。

またシーズンオフには良いご報告ができるように頑張っていきます。引き続きご声援のほどよろしくお願いします。

未来へつなぐ伊丹の推進に 協和建設㈱から寄附

9月3日、協和建設㈱の寿山祐輔社長から本市に１千万円の寄附を頂き、藤原保幸市長が同社を訪れ感謝状を贈りました。

頂いた寄附金は「人の絆　まちの輝き　未来へつなぐ　伊丹」の推進に活用します。

市政策室☎784−8007

ゼロカーボン・ドライブの実現へ 電気自動車を導入

9月から、市役所本庁舎の電力を再生可能エネルギー100％電力に切り替えるとともに、公用車に電気自動車を導入しました。

当該車両への給電を再生可能エネルギー100％電力で行うことで、車両走行時の温室効果ガスをゼロにする「ゼロカーボン・ドライブ」を実現しています。

市環境保全課☎784−8054

伊丹っ子たち

いつか市内でイベントを歌声よ、みんなに届け

元宝塚歌劇団雪組の麻樹ゆめみさん。

小学６年生の時に同劇団の公演を初めて見て、「あの舞台に立ちたい」とタカラジェンヌになることを目指し始めます。県立伊丹高に通いながら稽古に明け暮れる日々を過ごし、倍率約40倍の中、首席で宝塚音楽学校に入学しました。

同校は２年制で、特に１年目は厳しく上下関係などを教え込まれます。「今考えると、あの厳しさは決して不必要なものではなかった」と話す麻樹さん。客観的な意見を素直に受け入れ、舞台に生かしていくため、周りの意見を「ありがたい」と思えるようになるための期間でもあったといいます。

17年間同劇団に在籍した麻樹さんですが、特に印象に残るのは「エトワール」の経験です。公演の終盤に大階段を最初に降り、パレードの幕開けを飾るエトワールを、入団４年目に福岡県の劇場「博多座」での公演で務めました。

当時を思い出し、「エトワールを務めることが夢だったため、千秋楽は泣きそうになりながら歌った」と笑顔で語ります。

13年目には、各組の組長の補佐である副組長に異例の若さで就任します。70～80人が所属する組全体をまとめ、後輩に衣装や髪型、表現方法のアドバイスをしたり、劇団との間に立ち快適に公演ができるよう気を配ったりするなど「縁の下の力持ち」として雪組を支えました。

退団後は、小・中学生などへの歌・ダンスの指導や、さまざまなイベントへの出演などを行っていましたが、「よりたくさんの人に歌を届けたい」という思いからZOOM（ズーム）配信ライブを開始します。

「コロナ禍でも、ZOOMを通して皆さんと時間を共有できていると感じられる」と話す麻樹さん。日本全国から視聴者が集まる月１回の同ライブは、リクエスト曲も取り入れるなど「視聴者と気持ちを共有すること」を大切にしています。

４月からはエフエムいたみの番組パーソナリティーとして、ラジオに初挑戦しています。「市内を取材するたびに、良いところを発見できる。今後は市内でもイベントを開催したい」と意気込む麻樹さんの挑戦はこれからも続きます。

【ZOOM配信ライブ】10月10日㈰午後８時。詳しくは麻樹ゆめみ公式ブログで確認を。

【いながわハロウィンイベント】10月23日㈯午前11時、午後２時半、日生中央サピエ（猪名川町松尾台）で。

東京２０２０パラリンピック 本市ゆかりの選手が活躍

８月24日～９月５日に開催した東京２０２０パラリンピックに本市ゆかりの選手が４人出場しました。大会結果は次の通り。

【北間優衣選手】女子車いすバスケットボールに出場。全試合を通じて主力を務めました。９月３日の５・６位決定戦で６位に入賞。

【中西麻耶選手】８月28日の陸上女子T64走り幅飛び決勝に出場。６位に入賞。

【谷河勇綺選手】男子シッティングバレーボールに出場。９月２日の７・８位決定戦で８位に入賞。

【円尾敦子選手】８月28日のトライアスロンPTVIに出場。11位で完走。

問市教委スポーツ振興課☎784・8088。

図書館「ことば蔵」各種イベント

図書館「ことば蔵（くら）」で、交流イベントを次の通り開催します。

いずれも無料。当日直接、会場へ（※は除く）。先着順。

◎交流フロア運営会議　10月６日㈬午後６時半。

同館の交流フロアでやってみたいイベントや企画を提案し、参加者同士で検討します。

定員25人。

◎※「お渡り」する神様～猪名野神社神幸絵巻をひもとく　９日㈯午前10時半。

博物館学芸員の新宮由真さんを講師に、元禄時代から昭和30年代まで続いたとされる猪名野神社の秋の祭礼「お渡り」について話を聞く。

定員20人。

申同館へ。

◎いたみアーカイ部（左写真）　10日㈰午後２時。

本市の歴史や景観、記憶などを整理しデジタル情報に残す。

定員８人。

◎「伊丹公論」編集会議　12日㈫午後６時半。

本市の歴史や文化を発信する郷土紙「伊丹公論」の復刊第29号を編集します。

定員10人。

◎おすすめ本の交換会カエボン部　20日㈬午後６時半。

「魚」をテーマにお薦めの本を持ち寄り紹介します。

▽会場参加＝定員８人▽オンライン参加＝定員なし。10月18日までに同館ホームページから電子申請。

◎漫画を語ろう！　27日㈬午後６時半。

「青春を思い出す漫画」をテーマに自由に語り合う。

▽会場参加＝定員10人▽オンライン参加＝定員なし。10月25日までに同館ホームページから電子申請。

◎※第９回日本一短い自分史を募集

「金メダル」がテーマの自分史を（１人１作品。題名15字以内で本文800字以内。様式自由。未発表作品）。大賞作品は「伊丹公論」に掲載する他、図書カードを進呈。審査員は伊丹大使で柿衛（かきもり）文庫理事長の坪内稔典さん他。

申応募作品に住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号を書いて、来年１月９日までに直接か郵送（必着）で〒664・0895宮ノ前３−７−４図書館「ことば蔵」へ（同館ホームページから電子申請も可）。

※◎第８回しおりんピック作品募集

自作未発表のしおりを。応募作品は図書館「ことば蔵」で展示・審査し、金メダル受賞者には図書カードを進呈。

申同館にある申込用紙（同館ホームページからダウンロードも可）に必要事項を書いて、来年１月９日までに直接か郵送（必着）で〒664・0895宮ノ前３−７−４図書館「ことば蔵」へ。

＊　＊

問図書館「ことば蔵」☎784・8170。